



スカイAカップ 第43回関西オープン

3月17～20日／牧野松園ボウル



▲昨年の不調を脱して開幕戦VIに「本当にうれしい。まずは準永久シード(10勝)を目指したい」と藤井

▲「グリコで初優勝のときキラキラしているな、何回も味わいたいと思った」ステージに戻ってきた内藤

男子

予選15G、準決勝5G、その上位8名による総当たり決勝ラウンドロビンという長丁場を、藤井がラウンドロビン3G目の182以外はすべて200アップの安定した戦いぶりでトップシードを決めた。2020年の新人戦に続くレギュラートーナメントのタイトルを狙う藤村隆史が2位、ディフェンディングチャンピオンの渡邊雄也が3位、そして4位の渡邊航明までがTV決勝に進んだ。



▲初めてのテレビ決勝だった藤村、緊張したけど、ボックスに入る時には集中できた。準優勝は悔しいです

4位決定戦、渡邊、渡邊対決を制して連覇への望みをつないだ雄也に、3位決定戦で7フレからのオールウェーなどで259:194と快勝した藤村が、藤井への挑戦権を手にした。

優勝決定戦は、藤井が1フレからストライクラッシュをかける。スペアスタートの藤村も2フレからストライクで追いかけるが、ターキーで止まったのに対し、藤井は6連発でリードを広げる。しかし7フレは⑤⑦と割れてオープン。7フレからのダブルで逆転への望みをつなぐ藤村だが、9フレは⑩ピンタップ。しかもこれをカバーミス。藤井が9フレ再び⑤⑦と割れただけに、痛恨のミスとなっ



▲連覇ならず3位の渡邊「会場の牧野松園ボウルは相性がいいので、来年はリベンジを」

た。「ミスは以前に比べ減ったけど、こういう大事な場面で出るのが課題」と悔やんだ。藤井は10フレ1投目「自信があったし、きれいに投げられた」と、会心のストライクで勝負を決定づけた。通算タイトルはこれで6個だが、そのうちの半分が関西オープンとなった。



▲開幕戦の4位に「上出来です。このあと気持ち的に楽に戦えると思う」と渡邊

女子

開幕戦のウィメンズオールスターが5位に終わり、連勝が5でストップした姫路麗だが、逆に肩の荷を下ろしたような快進撃で、独走のままトップシードを決めた。予選からその姫路に続くポジションをキープし続けた山田幸が2位、ラウンドロビンの後半3位に上がった久保田彩花がそのまま3位、久保田とのポジションマッチを217:

藤井信人が男子開幕戦Vで今季の主演宣言

内藤真裕実は女王・姫路麗を下し2勝目

男女隔年開催で行われてきた関西オープンだが、今年は29年ぶりに男女共催で行われた。これが開幕戦となった男子は、藤井信人(52期・フリー)が第38回、40回大会に続く3勝目で、通算タイトルを6とした。女子は、4位でTV決勝進出の内藤真裕実(48期・フリー／サンブリッジ)が、トップシードの姫路麗を含む3人抜きで、2019年のグリコセブンティーンアイス杯以来の2勝目を挙げた。またベストアマには、男子は総合15位の小林佑輔選手(ニッケパークボウル)、女子は総合45位の金子萌夏選手(相模原パークレーンズ)が輝いた。(主催: 関西オープン実行委員会／(公社)日本プロボウリング協会)



▲トップを独走してきた内藤の6フレは「内ミスをした」と、⑨を残す。8フレまで6連発で1ピン逆転した姫路だが、9フレは「ちょっとバランスが崩れたけどそんなに大きなミスでは…」と振り返ったが、結果は⑧⑩のスプリット。一方6フレに切れた時点で「279:280で負けるのなら本望」と腹を決めた内

216と1ピン差で勝った内藤が、その勝利ポイントがものをいって4番目の座に滑り込んだ。

女子の決勝は、姫路対48期の3名という構図になったが、内藤が久保田を223:198、山田を269:225と同期対決を制して、姫路の待つ優勝決定戦に進んだ。

優勝決定戦は、内藤が1フレ厚めのラッキーなストライク。「相手が姫路さんなので、悩んでいる暇はない」と、2フレか

ら思い切りよくボールを替えたのが功を奏した。2フレを⑩タップの姫路も、3フレからストライクをつなげてピタリ追走。その重圧からか内藤の6フレは「内ミスをした」と、⑨を残す。8フレまで6連発で1ピン逆転した姫路だが、9フレは「ちょっとバランスが崩れたけどそんなに大きなミスでは…」と振り返ったが、結果は⑧⑩のスプリット。一方6フレに切れた時点で「279:280で負けるのなら本望」と腹を決めた内



▲母のVは家族に優勝を見せたかったけど、全力は尽くした



▲苦しい昨季からは復調気配の久保田「コンディションの変化に合わせるのに時間がかかってしまった」

藤は、7フレから見事なオールウェーで、言葉どおりの279。女王・姫路をねじ伏せて、歓喜のゴールに飛び込んだ。



▲ベストアマの小林選手(左)と金子選手

今月の表紙



■男子優勝・藤井信人

昨シーズンはポイントランキング4位といっても、2021年だけでいえば多分20位前後。とくに長いゲームが得意なのに、全日本の結果がよくなくて、正直気持ち落ちた。親しくさせてもらっている酒井武雄プロから「1回ボウリングから距離を置いてみる」といわれて、ゴルフを試みたりしながら、もう一度心の底からボウリングに向き合う気持ちになってから、本格始動した。

7、9フレの⑥⑦スプリットは、守りに入っちゃいけないと強気に攻めた結果だけど、その

分ボールが走りすぎた感じ。10フレは、みんな左レーンが10フレにくるようにレーン選択をしていたけど、自分は練習ボールで右がよく感じたので、自分の感覚を信じて左スタートを選択したのが正解で、自信を持って投げられた。2位が多かったのも、本当にうれしい6勝目です。(奥さんの浅田)梨奈にも初めて生で優勝を見せられてよかった。

優勝ボール: STORMビュー・フィジックス

■女子優勝・内藤真裕実

実は大会前は絶不調で、この大会も10本飛ばないのが自分だから、飛ばす時間帯になるまでは

我慢と開き直っていた。ラウンドロビンの終盤に、自分がいちばん打てたシフトの時間帯になってきたので、これはチャンスがあるなと思った。

決勝は48期が3人。それに宇山(侑花)を加えた4人で、プロテストの2次はずっと同じボックスで投げていた。そのなかでトップ合格をできたけど、タイトル争いでは3人に先を越されて、焦りはあった。でもそういう同期の存在が、自分にスイッチを入れてくれたと思う。

優勝決定戦は、姫路さんが相手だから、自分がストライクをつなげるしかないし、この展開は覚悟していた。そのなかでいつも詰めが甘い自分が、ストライクを引き切って優勝できたことがうれしくて、涙が止まらなかった。また主人(鮫島連プロ)の家族がすごく喜んでくれているみたいで、よかったなと思う。

優勝ボール: Brunswickメーリー・ジャブ・ミッドナイトブルー